

ACUMMO

あじゅも

スポーツトレーナー と鍼灸

No. 7 2018

平昌冬季オリンピック・パラリンピックの記憶がまだ色褪せないところに、2018年はロシアにてサッカーW杯、2019年は日本でラグビーW杯、そして東京オリンピック2020とスポーツのビッグイベントが続きます。様々なスポーツで多くの日本人選手が活躍することが増えてきた中で、スポーツトレーナーの存在が語られる場面も見かけるようになってきました。トレーナーになりたい！という方も増えてきているのではないのでしょうか。今回のACUMMOでは長くサッカー日本代表に帯同されている日本サッカー協会アスレティックトレーナーの池内誠先生にお話を伺いました。

当初スポーツトレーナーは考えていなかった！？

編集部（以下、編）「まず池内さんが現在のポジションに至った経緯についてお聞かせください。」

池内「中学生の時、100mが区で一番くらいだったんですよ。鍼治療も受けたことがあります。でも鍼灸専門学校の学生時代はスポーツトレーナーになることは考えていなかったですね（笑）」

編「なるほど。自分で開業したいという気持ちだったのでしょか？」

池内「どちらかというところな感じでした。」

編「そのような状況でも横浜マリノスに入られていらっしゃいますね。」

池内「専門学校の就職担当の先生から勧められて。サッカーがプロ化するからどう？という感じで。正直、最初は何も出来なかったですよ。そんなこと、今じゃ通用しないですけどね。通用するようになったのは一年経ってからですね。その間は修行みたいな感じでした。」

た。」

編「現在はスポーツトレーナーを目指して鍼灸の専門学校に入学してくる方は多いわけですが、スポーツトレーナーとしてのお仕事は当時はそれほど一般的ではなかったのでしょうか。」

池内「日本体育協会の公式、公認とかそんなのなかったですからね、当時は4年経って日本体育協会公認アスレティックトレーナー（日体協AT）の資格が創設されて、私はその初代になりますね。」

編「では流れの中でトレーナーになられたということになりますでしょうか。」

池内「そうですね、本当はそうですよ。運がいいですよ。マリノスでアスレティックトレーナーをさせていただいた後、整形外科に勤務しました。その後、ベガルタ仙台のアスレティックトレーナーとして勤めさせていただきました。株式会社サミーネットワークさんの中に治療室を開設させていただきました。日本サッカー協会アスレティックトレーナーとして代表に帯同するようになったのは2006年8月からですね。ドイツW杯の後からです。丸12年になりますね。」

